

### 「中央図書館に着任して」

中央図書館事務部  
図書総務課 熊野 智之

新人研修で近畿大学の教育の目的「人に愛される人、信頼される人、尊敬される人を育成することにある」を教えられて10数年経ちました。日々ルーチン業務で追われる中、10月から中央図書館に異動になり、言葉の意味を問い返してみました。近畿大学の面接試験の時に、「事務職員として学生さんの立場になって、大学の更なる発展に貢献したい」と言った初心を忘れずに、図書館業務に邁進してゆきます。

私自身「図書」との関わりですが、小さい頃から本が好きなおともあり、小学生1・2年の頃はデパートの書店で学習マンガ『日本の歴史』『世界の歴史』を立ち読みし、母の買い物待ちをしたのが思い出されます。時には2・3時間読みふける事もありましたが、良い子にしていたら本を1冊買ってもらえるのが楽しみでした。大学生の時は、授業の合間に中央図書館に通っていて、商経学部でしたので経済・金融の参考書をテスト前に借りていました。又、当時大河ドラマで「毛利元就」が流行り、戦国時代の歴史小説も読みふけていたのが思い出されます。

大学卒業後は異動で5年間東大阪を離れたため、図書館から足が遠くなり、久しく本を借りていませんでした。この秋数年ぶりに図書館内に踏み入れて、あまりの変貌ぶりにびっくりしました。お恥ずかしいですが、私のイメージする図書館は本を借りて、テスト前に自習に励むぐらいでしたが、今の大学生はパソコンの情報端末の利用や、電子ジャーナルで世界中の情報を閲覧し、膨大な情報をデータベースから検索する事に驚きを感じました。

話は変わりますが、リクルート『SUUMO なんでもランキング「家のすぐ隣にあったらうれしい施設は何ですか?」』の調査結果で、図書館はなんと第3位でした。<sup>(注)</sup>(私自身ちょっと意外に思いました…) 大学図書館は公共の図書館と性質は違いますが、今以上に身近に思えるよう環境整備に取り組みたいです。図書総務課の仕事は直接利用者の声を拾うことは少ないので、ちょっとした時間があれば図書館内に足を向けてゆきたいです。又、私自身も図書との出会いで新しい世界を見つけ、知的好奇心を深めたいです。皆様方にはご迷惑をおかけすることもあります。温かい目で見守っていただけると幸いです。

---

(注)

SUUMO

「SUUMO ジャーナル」

<http://suumo.jp/journal/2012/08/22/26988>

(2013.1.7 アクセス)